

地域資源の活用と可能性 ー牛久市におけるかっぱ伝承をもとにー

風間 瑞希

茨城県牛久市には古くからかっぱにまつわる伝承が存在している。かっぱの秘薬や牛久沼のかっぱに関する昔話、さらにはいたずらをしたかっぱを縛り付けたとされる河童松など、他にもいくつもある。また、牛久市はかっぱの絵を多く残したことで知られる小川芋銭ゆかりの地である。それゆえ、牛久市は「かっぱの里」としてかっぱのマスコットキャラクターを起用したり、夏祭りやその他市の看板やポスター等にもかっぱを観光資源として活用したりしているが、「かっぱの里」としての知名度は依然として低いように思われる。

同じようにかっぱ伝承を持つ地域で、かっぱをその地域の観光資源として上手く活用できている地域もある。その地域と牛久市で観光への力の入れ方の違いや観光資源としてのかっぱの活用方法の差異や共通点、また地域資源を観光に活用している地域に関する先行研究を調査することにより、牛久市の今後の観光的発展の可能性を明らかにすることができると考えられる。

本研究では、牛久市におけるかっぱ伝承と観光との関係性、現在の牛久市でのかっぱの活用方法について文献を主として調査を行った。次に、かっぱ伝承を持つ他の地域を調査し、その中でかっぱという地域資源を観光に有効に活用できている地域を取り上げ、具体的にどのような活用の仕方をしているのかを、牛久市の場合と比較検討を行った。また、かっぱだけでなく、地域資源を観光に活用している地域においてどのようなことが行われているのかを調査分析し、牛久市におけるかっぱの活用方法の可能性を考察した。

その結果、牛久市の公的な場でかっぱが初登場したのは昭和33年に発行された広報紙「広報うしく」であり、この際に使用されたかっぱは芋銭のイラストであったことが分かった。かっぱを観光に活用している地域で、特に目立ったのが福岡県久留米市と岩手県遠野市であり、牛久市と同じくイメージキャラクターがいたり、久留米市に至ってはキャラクターのホームページが作られていたり、牛久市と類似する点もあるものの、牛久市よりも観光への転用が有効に行われているという印象を受けた。

かっぱ伝承は各地域に存在しているようではあるが、観光資源として活用していて、かつ有効に活用できているのは一部であると思われる。観光協会のホームページで扱われているかどうか、その扱いが大きいかなども観光資源としての活用方法に大きく影響すると考えられる。観光的に活用していくためにはまず情報発信の仕方から見直していく必要がある。

(指導教員 綿抜豊昭)